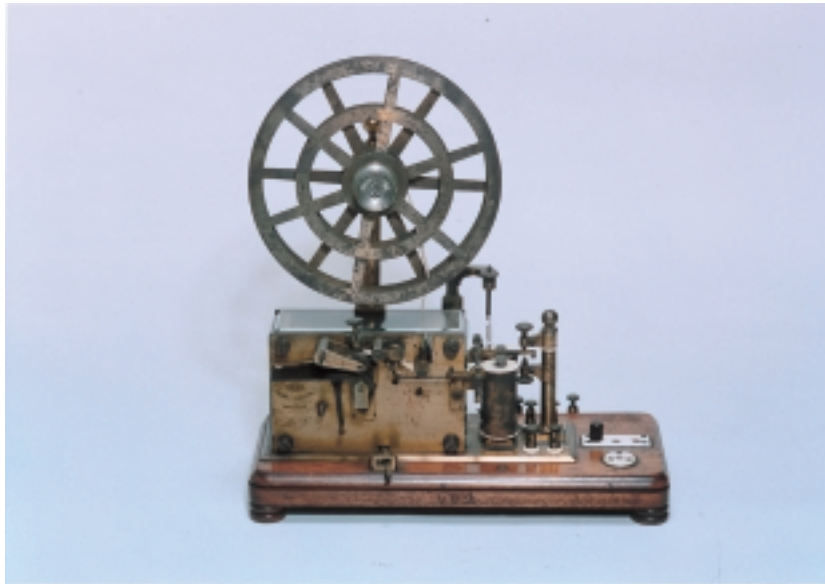


ていばーく所蔵資料紹介

榎本武揚のジニエー電信機



この電信機は、榎本武揚が幕府の留学生としてオランダに渡った折りに、江戸横浜間に電信を開設しようと持ち帰ったもので、フランスのジニエー社製のモールス電信機です。

榎本武揚は、明治維新の混乱の中でこの電信機を失ってしまいますが、新政府に出仕し逓信大臣となった後に、再び巡り合うことになります。

明治21年の電気学会において、逓信省の技師吉田正秀が、講演の中で、沖牙太郎（沖電気の創立者）が愛宕山下の古道具屋で手に入れた古い電信機を紹介しました。電気学会会長として出席していた榎本は、よく見るとそれが自分が持ち帰った電信機であることに気付き、講演後の席でこの事情を語りました。これを聞いた列席者一同は驚き、感動した沖牙太郎は、この電信機を逓信省に寄贈しました。

このような電気通信黎明期の逸話を秘めたジニエー電信機は、少し修理すれば通信できる状態で当館に保存されています。

（表紙解説）

東海道五拾三次之内 品川 諸侯出立

東海道最初の宿場、品川宿の入口付近を通り過ぎる大名行列を描いている。この「諸侯出立」は初版「日之出」の後版で、初版にはない鉄砲、槍持ちの姿がある。